

令和8年度

教職1年経験者研修（高・特）の手引

香川県教育委員会

目 次

I 教職1年経験者研修（高・特）のねらい	1
II 令和8年度 教職1年経験者研修（高・特）の実施に当たって	2
III 研修の留意点	4

様式等

<様式1> 研修課題	6
<様式2> 実施計画書	7
<様式3> 訪問指導希望調査票	8
<様式4> 研修課題の解決に向けて	9
<様式5> 訪問指導日程	10
<様式6> 研究授業実施報告書	11
<様式7-1> 研修の成果と課題（案）	12
<様式7-2> 研修の成果と課題	13
記入例 <様式2> 実施計画書	14

研修の流れ	15
研修に係る提出書類一覧	16
〔資料〕教諭の指標	17
受講に当たっての留意事項	18

I 教職1年経験者研修（高・特）のねらい

教職1年経験者研修（高・特）で目指す3つの力

児童生徒が心豊かに成長しながら確かな学力を身に付けていくためには、単に知識を伝達するのではなく、思考力・判断力・表現力を発揮しながら、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用する授業を展開することが大切である。また、児童生徒が「学ぶ喜びや楽しさ」を感じ、「充実感と達成感」を味わうことで、「自らの成長を実感できる」授業を実践していくために必要な資質や能力を、①教材研究、②授業技術、③児童生徒理解・生徒指導の3つの力として捉えることができる。

本研修はこれらの力の向上を目的とし、自主研修・校内研修を中心として行うものである。

① 教材研究

- ・ 単元のねらいを把握し、授業計画を立てる
 - ・ 情報を収集し、それを選択・分析・応用する
 - ・ 教材・教具の開発や使用法の研究をする
 - ・ 学習指導案を作成する
- など

② 授業技術

- ・ ねらいを達成するための授業を構成する
 - ・ 適切な発問や板書、説明、教材・教具・ICTの使用ができる
 - ・ ほめること・叱ること・励ますこと・支援することができる
 - ・ 児童生徒の状態によって臨機応変に対応する
 - ・ 集団をまとめる
- など

③ 児童生徒理解・生徒指導

- ・ 児童生徒の現状を客観的に分析・評価する
 - ・ 児童生徒の実態に応じた発問内容や試験内容を考察する
 - ・ 個に応じた指導をする
 - ・ 児童生徒に共感的な人間関係を育成する
 - ・ 児童生徒に自己存在感や自己決定の場を与える
 - ・ 安全・安心な風土を醸成する
- など

Ⅱ 令和8年度 教職1年経験者研修（高・特）の実施に当たって

1 目的

教員の経験に応じて実施する現職研修の一環として、教職1年経験者研修を受ける者について、学校での日常的な教育活動の中で、校長や教頭からの指導助言を受けながら、主体的に継続して授業研究等の研修を行い、教職1年経験者としての資質の向上を図ることを目的とする。

2 対象者

新規採用後1年を経過した教諭（初任者研修の教科指導を受講した者）

3 内容

○ 研修課題の設定と計画

個人の授業力向上に関する課題を設定し、1年間の実施計画を立てる。

○ 研究授業

9月～12月の間に、研修課題の解決を目指した研究授業を行い、校長や教頭をはじめとする校内の教員の評価・指導を受ける。希望がある場合は、香川県教育センター（以下、県教育センターとする）、高校教育課、保健体育課の指導主事及び校外の熟練教員（以下「指導主事等」という）の訪問指導を受けることができる。

○ 県教育センターでの研修

第1回研修は、研修課題と課題解決に向けたこれまでの取組について協議し、研修講師及び中堅教諭等資質向上研修Ⅱの受講者から指導・助言等を得て、今後の研修の見通しをもつ。

第3回研修は、1年間の研修成果をまとめ、発表・協議を通して各自の専門性の向上や指導法の改善の参考とし、これからの教員としての自主研修の在り方を探る。

なお、特別支援学校所属の者は、研究協議及び教科別研究協議では[特別支援]で受講するものとする。

4 日程等

回	期 日	指標	研 修 内 容	場 所	備 考
1	8/4(火) 13:25~16:25	Bb1	開講式 研究協議 「研修課題の解決に向けて」 1 経・中堅Ⅱコラボ研修 前半 教科混合グループ協議 分科会1 『個別最適な学び』 分科会2 『協働的な学び』 分科会3 『評価の工夫』 後半 教科別グループ協議	県教育 センター	中堅教諭等資質向上 研修Ⅱ（高・特） 一部と合同
2	9月 ～ 12月	Bb1	研究授業 ・「研究授業」 ・「事後指導（授業研究）」	各所属校	希望がある場合は、 訪問指導を実施
3	1/26(火) 13:25~16:25	Bb1	教科別研究協議 閉講式	県教育 センター	
オンライン研修 (オンデマンド型) 5月～1月		Bb1	高等学校における道徳教育の充実 に向けて：校内研修シリーズ No. 81	各所属校 等	対象：高等学校所属 の教諭
		Bb1	特別な支援を要する児童・生徒に 対する道徳教育 ～特別支援学級 における指導の在り方：実践編～： 校内研修シリーズ No. 99		対象：特別支援学校 所属の教諭
		Bc1	キャリア教育の実践（東北福祉大学 長田徹）：校内研修シリーズNo.149	各所属校 等	全員

- ・ 指標については、〔資料〕教諭の指標（P17）を参照する。
- ・ 研修日程等に変更がある場合には別途通知する。
- ・ 第1回開催要項は、各自全国教員研修プラットフォーム（Plant）よりダウンロードする。
- ・ オンライン研修（オンデマンド型）については、開催要項を全国教員研修プラットフォーム（Plant）よりダウンロードし視聴方法を確認する。

Ⅲ 研修の留意点

1 <様式1>～<様式4>の作成について

- 教職1年経験者は、初任者研修での自己の授業を振り返り、この研修で目指す3つの力(P1)を踏まえて、年間を通じた研修課題を設定し、課題解決に向けた実施計画を立てる。その際、自主研修等を複数回設定することとする。また、研修の時期に偏りがないように設定することが望ましい。
「研修課題」<様式1>、「実施計画書」<様式2>及び訪問指導希望調査票<様式3>を作成し、**令和8年5月21日(木)**までに提出する。
- 第1回研修「研究協議」での指導・助言及び協議内容を踏まえ、9月以降の取組について再考し、「研修課題の解決に向けて」<様式4>を作成し、**令和8年8月28日(金)**までに提出する。

2 第1回 研究協議「研修課題の解決に向けて」1経・中堅Ⅱコラボ研修 について

- 第1回研修の「研究協議」(8月4日実施)は、前半は分科会別、後半は教科別に中堅教諭等から、教職1年経験者の課題について指導及び助言を受ける。1年経験者は、前半は、各分科会のテーマについて、後半は、1学期で実践したことや、2学期に実施する研究授業で工夫しようとしていることについて中間発表を行うため、その準備をしたうえで第1回研修に出席すること。具体的な準備物は開催要項を参照すること。
- 分科会については、全国教員研修プラットフォーム(Plant)から希望調査を行う。Plantにログインして「第1回研究協議 分科会希望調査」に**令和8年6月24日(水)**までに回答すること。分科会は以下の通り。
 - ・分科会1『個別最適な学び』
 - ・分科会2『協働的な学び』
 - ・分科会3『評価の工夫』

3 研究授業

- 実施時期は9月～12月とする。
※第1回研修「研究協議」(8月4日実施)での指導・助言及び協議内容を基に実践してもらうため、9月以降の実施とする。また、第3回研修「教科別研究協議」(1月26日)で、指導主事等からの指導・協議が行われるため、12月までの実施とする。
- 研究授業の指導は、校長、教頭、教科主任等及び指導主事等 (ただし指導主事等は希望がある場合のみ) が行う。
- 訪問指導を希望する場合は、5月に提出した「訪問指導希望調査票」<様式3>に基づいて、県教育センターが各教科担当指導主事等の予定を考慮し指導日程を決定する。校長は、**研究授業実施1週間前**までに、「訪問指導日程」<様式5>を作成し、学習指導案とあわせて、県教育センターに提出する。
- 研究授業は、できるだけ多くの教員が参観できるようにし、授業後に事後指導(授業研究)の時間を設定する。
- **研究授業実施後2週間以内**に、「研究授業実施報告書」<様式6>を作成し、学習指導案とあわせて、県教育センターに提出する。

4 自主研修

- 研修課題の解決に向けて、以下のような自主研修を絶えず行い、授業力向上を目指す。
(研修例) ・先行研究や専門分野の文献を読み、情報を収集する。
・教材研究・授業技術の研究を行い、効果的な教授法を試す。
・校内で他の教員の授業を積極的に参観する。
・他の教員に授業を参観してもらい、評価・アドバイスを得る。
・教育研究団体や学会に所属し、研究を行う。

5 「研修の成果と課題」の作成について

- 年間を通じた研修を踏まえ、研修の成果と今後の課題を考察する。「研修の成果と課題（案）」＜様式7-1＞を作成し、県教育センター研修担当に令和9年1月8日（金）までに提出する。
なお、作成に当たっては、実践報告と成果を区別して考え、実践報告には自分自身が実際に取り組んだ具体的な内容を記入し、成果には自分自身が新たに知った内容・できるようになった内容等を記入する。
- 第3回研修「教科別研究協議」における指導主事等からの指導や協議の内容を踏まえ、「研修の成果と課題」＜様式7-2＞を完成し、令和9年3月1日（月）までに提出する。

6 各様式の提出について

- 詳細は「研修に係る提出書類一覧」（P16）を参照する。

<様式1>

令和8年度 教職1年経験者研修（高・特） 研 修 課 題

学校	教科等		教諭	氏名
初任者研修における授業力に関する成果と課題				
教職1年経験者研修での研修課題（授業力向上に関する課題） 「 」				
課題解決に向けた具体的な取組				
研修課題の解決に向けて、中堅教諭等資質向上研修Ⅱ（高・特）受講者と協議したい具体的内容				

※ 2ページ以内にまとめる。2ページになる場合は、両面印刷すること。

<様式2>

令和8年度 教職1年経験者研修(高・特) 実施計画書

校名 () 学校) 受講者名 ()

研修課題	
------	--

月	県教育センター等における研修	自主研修等	事前課題・提出物等
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			

※ 自主研修等は、複数回設定する。また、研修の時期に偏りがないように設定することが望ましい。

※ 2ページ以内にまとめる。

<様式3>

令和8年度 教職1年経験者研修(高・特) 訪問指導希望調査票

学校名	学校
氏名	

<訪問指導の留意点>

- (1) **希望がある場合は**、指導主事等(県教育センター・高校教育課・保健体育課・熟練教員)が訪問指導する。
- (2) 訪問期間は9月から12月の間とし、日程は所属校と協議の上決定し、後日通知する。
- (3) 訪問指導の内容は、「研究授業参観」及び「事後指導(授業研究)」とする。

(例)

時間	内容
第3校時 (10:40~11:30)	研究授業参観
第4校時 (11:50~12:40)	事後指導(授業研究)

- (4) 実施予定日の1週間前までに、「学習指導案」、「訪問指導日程」<様式5>を県教育センターに提出する。提出先は「香川県教育センター所長」とし、メールアドレスは別途指示する。
- (5) 実施予定日及び時間等に変更が生じた場合は、適宜調整する。
- (6) その他、訪問指導を行うために必要な具体的事項については、県教育センターから別途連絡する。

() 訪問指導を希望しない

() 訪問指導を希望する

【訪問指導希望日及び時間】

第1希望日 月 日 () : ~ :

第2希望日 月 日 () : ~ :

第3希望日 月 日 () : ~ :

(留意点) 第1希望日~第3希望日は、すべて記入すること。
事後指導を含めた時間を記入すること。

<様式4>

令和8年度 教職1年経験者研修（高・特） 研修課題の解決に向けて

学校	教科等		教諭	氏名
教職1年経験者研修での研修課題（授業力向上に関する課題） 「 」				
第1回研修における協議及び指導・助言の内容等				
課題解決に向けた今後の具体的な取組				

※ 2ページ以内にまとめる。

<様式5>

令和8年度 教職1年経験者研修（高・特） 訪問指導日程

※訪問指導を希望した場合のみ提出

学 校 名	学校
氏 名	
訪 問 日	月 日 ()

内 容		時 間	場 所	出席予定者
研究授業	第 校時	時 分 ~ 時 分		
事後指導 授業研究	第 校時	時 分 ~ 時 分		

連絡事項

<様式6>

令和8年度 教職1年経験者研修(高・特) 研究授業実施報告書

	学校	教諭	氏名
教科等			
研修日時	月 日 ()	:	~ :
参観人数	名		
教職1年経験者研修での研修課題			
研究授業の成果・反省(評価)、参観者からの具体的指導内容等			
今後の課題			

※ 学習指導案とあわせて提出すること。

<様式7-1>

令和8年度 教職1年経験者研修(高・特) 研修の成果と課題(案)

学校	教科等		教諭	氏名
1 教職1年経験者研修での研修課題(授業力向上に関する課題)				
2 実践報告 ※研究授業を含めた年間通しての具体的取組を記入				
3 成果 ※自分自身が新たに知った内容・できるようになった内容等を記入				
4 授業力向上への今後の課題				

※ 2ページ以内にまとめる。2ページになる場合は、両面印刷すること。

<様式7-2>

令和8年度 教職1年経験者研修（高・特） 研修の成果と課題

学校	教科等		教諭	氏名
1 教職1年経験者研修での研修課題（授業力向上に関する課題）				
2 実践報告 ※研究授業を含めた年間通しての具体的取り組みを記入				
3 成果 ※自分自身が新たに知った内容・できるようになった内容等を記入				
4 授業力向上への今後の課題 ※第3回研修 教科別研究協議の内容を踏まえて記入				

※ 2ページ以内にまとめる。

記入例 <様式2>

令和8年度 教職1年経験者研修（高・特） 実施計画書

教職1年経験者研修で目指す3つの力を踏まえて決定する。（様式1と合わせる）

受講者名（ ）

研修課題	
------	--

月	県教育センター等における研修	自主研修等	事前課題・提出物等
4	<p>「Ⅱ 4 日程等」を基に作成する。 ※研究授業もこちらへ記入すること。</p>		○「研修課題」、「実施計画書」等について協議及び作成
5			○「研修課題」、「実施計画書」「訪問指導希望調査票」提出（21日）
6		○香川県高等学校教育研究会○○部会 春季研究会（○日）	○第1回 研究協議 分科会希望調査送信（24日）
7		○校内授業参観（○○科）	○第1回 研究協議「研修課題の解決に向けて」1経・中堅Ⅱコラボ研修 発表準備
8	○県教育センター主催研修（4日）	○県教育センター主催の専門研修（○日）	○「研修課題の解決に向けて」提出（28日）
9			
10		○校内他教科授業参観（○○科）	
11	●研究授業・事後指導		
12			○「研究授業実施報告書」、「学習指導案」提出
1	○県教育センター主催研修（26日）		○「研修の成果と課題(案)」提出（8日） ○オンライン研修「オンデマンド型研修受講記録」送信（29日）
2		○全国教員研修プラットフォーム（Plant）によるオンデマンド研修	
3			○「研修の成果と課題」提出（1日）

- ※ 自主研修等は、複数回設定する。また、研修の時期に偏りがないように設定することが望ましい。
- ※ 2ページ以内にまとめる。

研修の流れ

4月上旬	教職1年経験者研修の受講申込 (Plant)
4月下旬	教職1年経験者研修の受講決定確認 (Plant)
5月21日(木)	「研修課題」<様式1>、「実施計画書」<様式2>、 「訪問指導希望調査票」<様式3>提出 ※訪問指導を希望しない場合も「訪問指導希望調査票」<様式3>を提出
<u>第1回研修</u> 8月4日(火)	<u>県教育センターでの研修</u> 「研修課題」<様式1>を指示された部数持参
8月28日(金)	第1回研修での協議及び指導・助言を踏まえ、課題解決に向けた9月以降の取組等について再考し、「研修課題の解決に向けて」<様式4>を提出
<u>第2回研修</u> 9月～12月	<u>研究授業</u> ：研修課題の解決を目指した研究授業を行う ・学習指導案：研修課題の解決を目指した内容で作成 ※訪問指導を希望した場合は、1週間前までに「学習指導案」、 「訪問指導日程」<様式5>を提出 ・事後指導（授業研究）
研究授業実施後 2週間以内	「学習指導案」、「研究授業実施報告書」<様式6>提出 ※訪問指導を実施した場合は、実施後の「学習指導案」は提出不要
1月8日(金)	<u>「研修の成果と課題(案)」<様式7-1></u> 提出
<u>第3回研修</u> 1月26日(火)	<u>県教育センターでの研修</u> 「学習指導案」、「研究授業実施報告書」<様式6>、 「研修の成果と課題(案)」<様式7-1>を指示された部数持参
3月1日(月)	<u>「研修の成果と課題」<様式7-2></u> 提出

研修に係る提出書類一覧

提出期限	提出書類	様式	提出先等 ^{※1} すべてメール提出	
令和8年 5月21日(木)	研修課題 ^{※2}	様式1	県教育センター所長	
	実施計画書	様式2		
	訪問指導希望調査票 ^{※3}	様式3		
令和8年 8月28日(金)	研修課題の解決に向けて	様式4	県教育センター所長	
研究授業				
訪問指導 を実施する 場合	実施 1週間前	学習指導案	様式を 定めない	県教育センター所長
		訪問指導日程	様式5	
	実施後 2週間以内	研究授業実施報告書	様式6	
訪問指導 を実施し ない場合	実施後 2週間以内	学習指導案	様式を 定めない	県教育センター所長
		研究授業実施報告書	様式6	
令和9年 1月8日(金)	研修の成果と課題 (案) ^{※4}	様式7-1	県教育センター 研修担当	
令和9年 3月1日(月)	研修の成果と課題	様式7-2	県教育センター所長	

※1 県教育センター所長あての提出書類については、**校長決裁後、鑑を付けてメールで提出する**。(提出先は、4月下旬に全国教員研修プラットフォーム(Plant)で教職1年経験者研修(高・特)担当指導主事のメールアドレスをお知らせする。)ただし、「研修の成果と課題(案)」については、鑑がなくても構わない。

※2 第1回研修当日に指定部数(後日連絡)持参する。

※3 訪問指導を希望しない場合も提出する。

※4 第3回研修当日に指定部数(後日連絡)持参する。

● 様式は県教育センターWebサイトからダウンロードできる。

〔資料〕 教諭の指標（「香川県教員等人材育成方針」より）

キャリアステージ		基礎期 1	発展期 2	深化期 3
観点				
目安となる経験年数		1年目～6年目	7年目～20年目	21年目～
素養・資質 A	使命感・責任感 a	教員の使命と責任を理解し、法規の遵守や綱紀の保持などに対する意識を高め、教員として必要な倫理観を培つ。	ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。	他教員の範となるような確たる倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などについて、使命感、責任感を持って助言する。
	コミュニケーション b	教育者としての自覚に基づき、子どもや保護者などと適切なコミュニケーションがとれるような、組織の一員としての社会性を身に付ける。	教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。	教育者として信頼される発言や行動ができ、自ら範を示すとともに、コミュニケーション能力を生かして、周囲の関係を調整する。
	自己研鑽 c	他教員から学び姿勢を持ち、自分を見つめ、適切な目標設定のもと、探究心を持って、研究と修養に励む。	自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。	自己の教育実践を振り返りながら、より効果的な教育活動の実践に取り組むとともに、学校全体を視野に入れた目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。
知識・技能 B	子ども理解 a	子どもとのかかわりを通して、子どもの発達段階や成長の背景、配慮を必要とする子どもへのかかわり方を理解する。	子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。	子どもに対する豊かな理解力と豊富な指導経験を生かし、子どもの個性が発揮できるよう、多面的な配慮ができる。
	学習指導 b	学習指導に関する基本的な知識や技能を身に付け、計画的に授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。	学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。	学習指導に関する専門的な知識や技能をより一層高め、自ら適切な学習評価と授業改善を行うとともに、組織的な取組となるよう、他教員に対して指導や助言ができる。
	生徒指導 c	子どもに自己存在感や自己決定の場を与え、成長を支援するとともに、共感的な人間関係を育成し、計画的に集団づくりへの取組ができる。	子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。	子どもの成長のために多角的な支援を行うとともに、共感的な人間関係の育成に必要なネットワークを機能させ、集団づくりについての指導や助言ができる。
連携・協働 C	学校づくり a	学校の教育目標を理解し、目標達成に向けた自己の役割を自覚し、特色ある学校づくりにおける「チーム学校」の一員として行動する。	学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。	学校の教育目標達成に向けた取組を総合的に分析し、「チーム学校」の中心となって、特色ある学校づくりのために貢献する。
	参画・運営 b	保護者や地域との連携の必要性を理解し、管理職や同僚に報告、連絡、相談をしながら、教員集団の中で自ら進んでかかわりを持つ。	保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。	保護者、地域、関係機関等に対して学校の取組を広報し、校内外における連携を強化し、協働体制づくりに関してリーダーシップを発揮する。
	危機管理 c	学校で起こり得る多様なリスクやトラブルを理解し、それに対応する力を身に付け、安全で安心な学校づくりに取り組む。	学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。	多様なリスクやトラブルに対して学校全体で取り組めるよう、他教員に助言し、安全で安心な学校づくりに関してリーダーシップを発揮する。
特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応 ア		特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等理解し、対応するために必要となる知識や支援方法を身に付け、学習上・生活上の支援の工夫を行うことができる。	特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。	特別な配慮や支援を必要とする子どもに対して、適切に対応するとともに、他教員への指導や助言、関係機関や専門機関等との連携を積極的に推進することができる。
ICT や情報・教育データの利活用 イ		学校における ICT 活用の意義を理解し、授業や校務等において ICT を積極的に活用するとともに、子どもの情報活用能力を育成するための実践を行うことができる。	ICT を効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。	自らの ICT 活用指導力を高めるとともに、他教員に効果的な活用方法を指導助言することができる。情報・教育データを活用して組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

受講に当たっての留意事項

1 受講に当たって

- ・ 受講者として、研修にふさわしい身だしなみで参加する。
- ・ 名札（各学校・園で使用しているもの）、筆記用具、必要に応じて指示されたものを持参する。
- ・ 研修開始時刻は午前9時25分（午後1時25分）である。それまでに受付等を済ませておく。
- ・ 受付は午前9時（午後1時）から始める。余裕をもって到着するよう心掛ける。
- ・ やむを得ない理由により欠席・遅刻・早退をする場合は、管理職から県教育センターに連絡する。

その後、校長名で県教育センター所長あてに欠席等の届をメールで提出する。なお、届の様式は、県教育センター Web サイトからダウンロードできる。

香川県教育センター 所在地	〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1
電話番号	087-813-0942（教職員研修課）
提出先メールアドレス	kyoikucenter@pref.kagawa.lg.jp

2 県教育センターの利用について

- (1) 自動車での来所について
 - ・ 県教育センター建物の北側にある駐車場を利用する。
 - ・ 研修終了後は速やかに車を出庫する。
- (2) 公共交通機関の利用について
 - ・ 県教育センター Web サイトのアクセス案内を参照する。
- (3) その他
 - ・ 冷暖房については、稼働期間、設定温度等を必要最小限としており、適宜換気を行うため、体温調節のための衣類が必要な場合は準備する。
 - ・ 1日研修の際には、弁当を販売している。

3 緊急時の対応について

- (1) 警報発表時の対応
 - ① 原則として、午前6時30分（午後からの研修の場合は午前10時30分）から研修開始時刻までの間に、県内いずれかの地域に警報（大雨・洪水・暴風・暴風雪・波浪・高潮・大雪）が発表されている場合又は発表されていた場合、その日の研修を中止する。
 - ② 訪問指導については、当日当該学校と協議の上、訪問指導の実施の有無を決定する。
- (2) 地震発生時の対応
 - ① 県内いずれかの地域で震度6弱以上の地震が発生した場合は、原則として、発生から24時間以内に始まる研修は実施しない。研修中の場合は、直ちに研修を取りやめ、その日の研修は実施しない。
 - ② 県内いずれかの地域で震度5強以下の地震が発生した場合は、学校や設置者の災害対応を優先する。その場合は、後日、欠席等の届を提出する。
- (3) 熱中症特別警戒アラート発表時の対応
香川県に熱中症特別警戒アラートが発表されている場合、その日の研修を中止する。

※ いずれの場合も、事後の対応については、別途速やかに連絡する。